

パリ航空ショーで披露

三菱航空機(愛知県豊山町)がパリ国際航空ショーで、小型旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)の実機を披露した。計画遅れの瀬戸際で展示にこぎ着けたが、開発では海外勢との差が浮かび、ほろ苦いデビューとなった。航空機分野で世界をにらむ部品メーカーは、初の国産ジェットに希望を託す。

試験か営業か

各社の新型機が並ぶパリ近郊のルブルジェ空港。「開発が進んでいることを理解してもらおうのが一番のミッションだ」。三菱航空機の水谷久和社長は18日、最初の顧客であるANAホールディングスの青いカラーに塗り替えた機体を背に、こう強調した。

巨大市場の欧州でお披露目すれば営業効果は高まる。しかし展示した機体は米国で飛行試験を急

三菱MRJ 海外勢と差



ぐ4機のうちの1機。設計変更により試験時間が延び、中断してまでパリに運ぶかはぎりぎりの判断だった。報道陣に公開した機内は断熱材や配線がむき出しのまま。デモ飛行の準備まで手が回らず、25日の閉幕を前に展示は終了。幹部は「今はこれが精いっぱいだ」とつぶやいた。

「加工技術負けてない」

競争激化

最大のライバルとされるブラジルのエンブラエルは、派手なデモ飛行を連日繰り返した。小型機市場のシエアはトップ。ショーに合わせて新型機「E2」を新たに30機受注したと発表し、勢いを印象付けた。

E2はMRJと同じ米プラット・アンド・ホイットニー製の低燃費エンジンを搭載し、2018年から市場に投入する計画だ。エンブラエル旅客機部門トップのジョン・スラットリー氏は「これまでで最も利益を生む機体になる」と自信を示した。

航空アナリストの杉浦一機さんは「航空ショーはライバルに実力を見せつける場でもある。相手だけが受注を発表すると旗色が悪い」と指摘する。小型機市場でシエア2位のカナダのボンバルディアは「Cシリーズ

ズ」が好調で競争は激しい。

部品メーカー

パリには航空分野の事業拡大を目指す中小メーカーも乗り込んだ。中部経済産業局は職員をショーに派遣し、企業などと欧州メーカーとの商談の場を設けた。

日本航空宇宙工業会によると、16年の国内航空関連の生産額は約1兆7千億円。30年に3兆円を超えるとの推計もある。製造業が盛んな中部地域では有望な成長市場だとして官民一体で、産業の柱に育てたい考えだ。

欧州では航空機大手エアバスに連なり、多くの部品メーカーが発展する。ドイツ企業のブースを訪問した機械部品のエステック(清水町)の鈴木誠一社長は「加工技術では負けていない。MRJが成功すれば、日本も変わる」と期待した。

披露された小型旅客機MRJの実機は18日、パリ近郊のルブルジェ空港(共同)